



細菌感染とインフラマソーム応答

旭川医科大学 医学部 感染症学講座
微生物学分野 教授 原 英樹 先生

微生物が感染すると宿主は異物認識受容体を介して自然免疫を活性化します。代表的な受容体として、細胞表面に発現する TLR (Toll-like receptor) と細胞内に発現する NLR (Nod-like receptor) が知られています。

なかでも一部の細胞内受容体はインフラマソームと呼ばれるタンパク複合体の形成を介してプロテアーゼであるカスパーゼ 1 の活性化を特異的に制御することが 2002 年に報告されました。

それ以降、インフラマソームは細菌感染だけでなく、ウイルスや真菌など多岐にわたる感染症において活性化されることが明らかにされてきました。

今回の講演では主にリステリアや黄色ブドウ球菌によるインフラマソーム活性化機構と感染病態への影響についてご紹介させていただきます。

参考論文

Hara H et al. Cell 175, 1651-1664, 2018

Hara H et al. Nat. Immunol. 14, 1247-1255, 2013

2024年11月26日 16:00

共同研究棟第5講義室

お問合せ 細菌学教室 2050

